

道の駅もりおか渋民「フューチャーセンター（FC）」とは

フューチャーセンター（FC）とは

- ・「市民・団体・学校・企業・行政などの多様な人々が対話を通じ、それぞれの知識や経験を掛け合わせて新たなアイデアや価値を生み出す『場』、『オープンイノベーション』」として定義されるもの。
- ・全国でも、企業や大学、自治体等が、それぞれの課題や目的に合わせたフューチャーセンターを設置している事例がある。
 - 徳島大学フューチャーセンターA.BA（徳島大学）
 - プラッツならしのフューチャーセンター（習志野市）

道の駅もりおか渋民におけるフューチャーセンター

「**地域産業・コミュニティである「農業農村」と、そこに暮らす・関わる「ひと」を、将来にわたって紡ぐ**」ことを目的に、「**地域住民や学生、企業などが集い、地域の課題解決や新しい商品・サービスを生み出す場**」「**様々なひとのまなびの場**」

として、フューチャーセンターを設置する。

- ⇒ 産直、レストラン、テナント、フューチャーセンターが連携して地域資源を活用・発信し、新たな価値や魅力を生み出すことで、地域活性化の拠点となる道の駅を目指す。

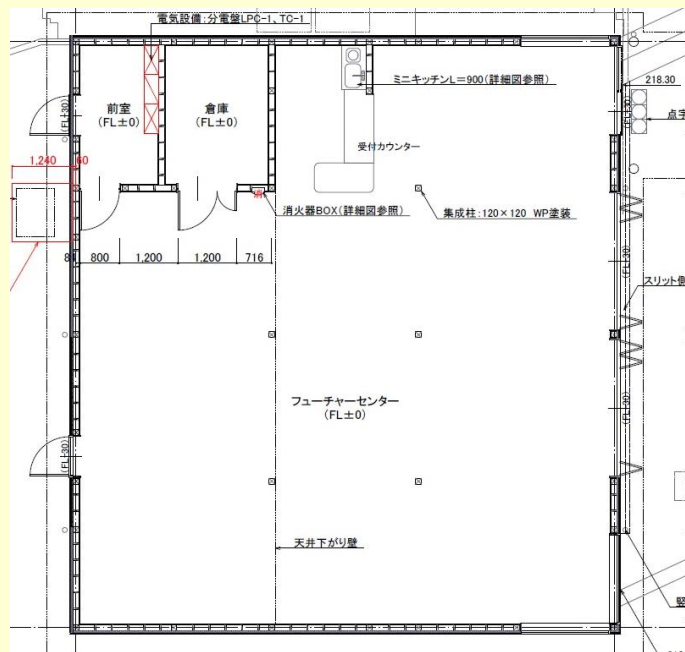
フューチャーセンターの活動イメージ

- ・地域の農畜産物を使った新商品開発
- ・地域の食や伝統文化の継承のためのイベント
- ・道の駅を活用した地域活性化のイベント企画や実施
- ・小中高生の総合学習・探究学習の活動
- ・「文京区大学と創るアグリイノベーション事業」や「モリのタネプロジェクト」の活動拠点
- ・道の駅利用者参加型のイベント等の実施

⇒ **様々なひとが参加・交流し（つどう、つながる）**
新たな価値を生み出す場（つむぎあう）

導入設備（予定）

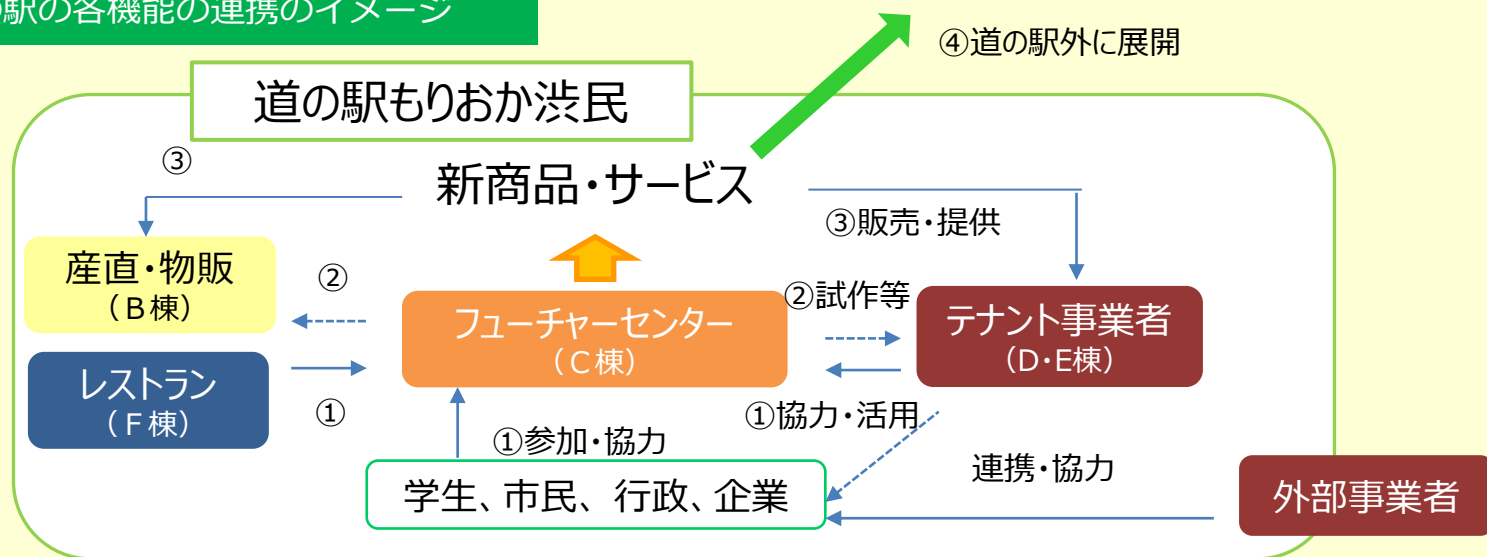
- ・フレキシブルなテーブル・イスやホワイトボードで、より自由な発想でな話し合いができる環境に
- ・プロジェクター、スクリーン、Wi-Fi、音響設備によりオフラインだけでなくオンライン会議・イベントも可能



フューチャーセンター（C棟）図面

道の駅もりおか渋民「フューチャーセンター（FC）」とは

道の駅の各機能の連携のイメージ



テナント事業者のフューチャーセンター（FC）への関わり

- FCを活用し、多様なひとの参画を得ながら商品の開発や新たなサービスの企画等を行っていただけます。
- FCの活動の内容により、知見や技術の提供といったご協力をお願いすることがあります。活動への参加も大歓迎です。
- FCをイベント等の場として利用いただけます。
- このほか、自由な発想・様々な用途でFCを活用いただくことができます。

先行事例としての活動

モリのタネプロジェクト

市内高校生・学生と事業者等のコラボによる道の駅のオリジナル商品開発プロジェクト（令和2年度から継続実施）

地域の農産物（盛岡りんご、黒平豆、玉山夏いちご等）を使ったオリジナル商品アイデアを、高校生・学生がワークショップや事業者のアドバイスを受けながら企画。事業者の製造協力により、試験販売イベントや発表会を実施している。

